

## 第9回コンクール大賞の選考について

「わが村は美しく一北海道」運動が目指す姿とは、幾世代にも渡り営まれてきた農林水産業の健全な生産活動によってもたらされる「景観」、「地域特産物」、「人の交流」という3つの要素が、相互に関連し合いながら全体として調和を保ち、総合的に地域住民の生活に溶け込んで形成される「豊かさ」が醸し出す「美しい農山漁村」である。

今回の大賞審査においては、「地域活動のモデル」に相応しい活動を選考するため、応募要領に示された6項目の審査基準と併せて、審査委員の共通認識として次の視点より審議を行った。

- 1 活動の結果としての具体的な「効果」が明白
- 2 活動の「先進性」「継続性」「広がり」が顕著
- 3 「村づくり」という概念で「景観」「地域特産物」「人の交流」の3つの要素が広がる活動
- 4 「景観」への意識が高い活動団体である

これらの観点から、審査対象となった13団体の活動を審査すると、先に述べた「わが村」運動が目指す姿への取り組み内容に関しては、何れの団体も地域が主体となった魅力ある活動として評価されるものである。この中から今日の社会状況に呼応する先導性、モデル性において、特に優れている次の2団体を大賞として選考した。

### 大賞 団体名：特定非営利活動法人 サトニクラス（月形町）

障がい者雇用による農作業などの人材確保と町経済の活性化「特定非営利活動法人 サトニクラス」

本団体は、まちの基幹産業である農業と福祉を連携させ、農福連携による6次産業化と地域活性化を目指して、平成24年度に設立された。

本団体の取り組みは、障がい者それぞれに合った働き方が出来るよう地域が一体となり工夫し、ミニトマト出荷用の段ボール箱組立作業や畑での苗作り、除草、収穫作

業、ビニールハウスの支柱立て・ビニール張りなど、農作業のやり方を少し工夫することで障がい者が作業できるようになり、慢性的に人手不足にある農家の労働力の軽減に繋がり、農家の実情と障がい者の雇用の確保という双方の思いが噛み合う体制が実現されている。

また、農村地域に伝わる昔ながらの製法で、地域の農産物を使用した漬け物や味噌、麴などの発酵食や規格外の野菜を利用した乾燥野菜を製造し、地域の伝統的な発酵食・保存食文化を継承している。

この漬物などの製品は、地元農家や地域のボランティアグループと連携して町内の直売所での販売、札幌市内の教会バザーや地下街での出張販売を行うなど都市と農村の交流に繋がる継続的な活動であり、高く評価できる。

本団体の活動は、農業と福祉を連携させ障がい者の雇用機会をつくるばかりではなく、生産者と消費者をつなぐ交流拠点を作り出し、地域住民との関わりを通して、地域の文化のよさを取り入れながら継続的に地域の活性化にも寄与しており、地域活動のモデルとして相応しい活動だと評価できる。

## 大賞 団体名：北海道真狩高等学校（真狩村）

「村をもっと元気に！」野菜スイーツで高校生が取り組みます「北海道真狩高等学校」

本校は、全国でも珍しい野菜をスイーツにするパティシエを育てることにより、高校生が主体となった食育活動や商品開発などにより、「村をもっと元気にする」を合い言葉に取り組みがなされている。

地元小学生と食育文化を次世代に伝える「大豆100粒運動」を通して、種まきから収穫までを行う食育活動に取組み、さらにその大豆を用いたスイーツや真狩産のゆり根やにんじんを用いたケーキなどを商品開発し、真狩の道の駅の高校生カフェなどで販売している。

店頭販売では、生徒が順番で店長を行い、商品の陳列、材料の違い、単価の考え方、

商品の説明などを企画し実行していることは、生徒にとって貴重な経験となっている。

これら商品化されるまでの過程において、人との繋がりを重視し、小学生・農家・行政・商工会・地元企業などいろいろな方々と関わることで、ネットワークが構築されて、学校が地域活性化づくりの母体の一つとなっている。

本活動は、スイーツ開発を野菜の栽培、食育、商品開発、販売までを一貫した流れで行っており、高校生による6次産業化として完成度は高く、「わが村は美しくー北海道」が目指す、魅力ある活力に満ちた地域づくりの理念に合致した取り組みだと評価できる。